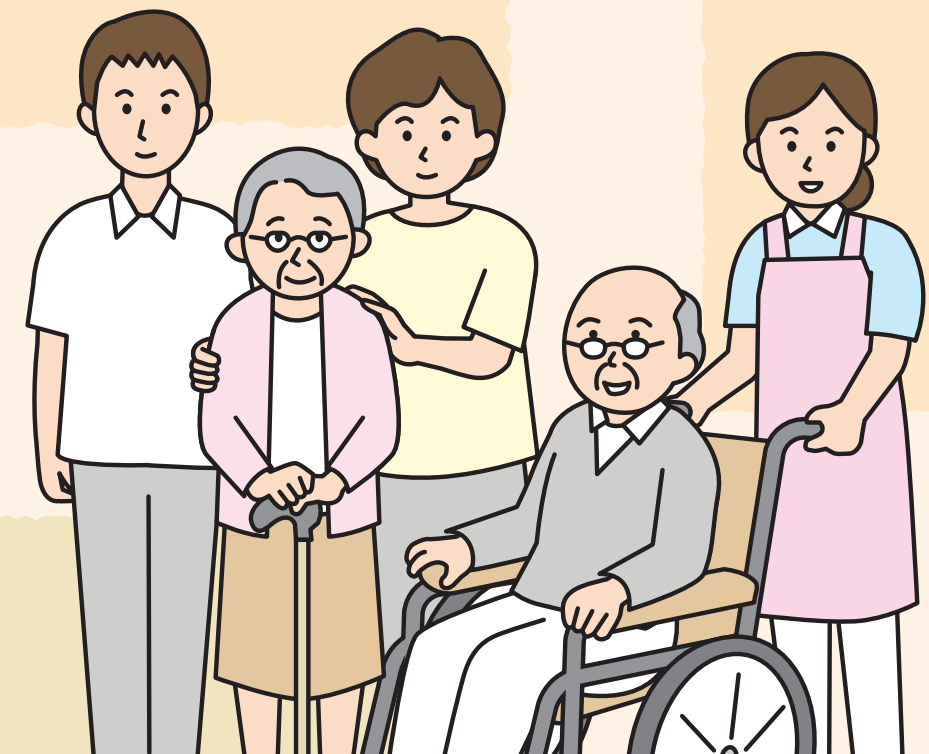


高齢者施設 介護職員のための 実践ガイド

～看取り・高齢者虐待防止・ハラスメント対応～

Care for Every Heart



高齢者施設介護職員のための実践ガイド

看取り・高齢者虐待防止・ハラスメント対応

公益社団法人 福岡県医師会



この書籍の電子ブック版を
福岡県医師会ホームページでご覧になれます。



とびうめネット
マスコットキャラクター
うめこ先生

福岡県医師会ホームページアドレス https://www.fukuoka.med.or.jp/doctors/kaigo/_13069.html
発行: 令和8年3月 公益社団法人 福岡県医師会



公益社団法人 福岡県医師会

**高齢者施設
介護職員のための
実践ガイド**

～看取り・高齢者虐待防止・ハラスメント対応～

はじめに

今後、医療・福祉・介護を複合的に必要とする85歳以上人口の急増及び在宅医療の推進に伴い、人生の最終段階を高齢者施設で迎える方がますます増えていくことが見込まれています。

このような中、高齢者施設に従事する介護職が看取りの場面に関わる機会も多くなっていくことが予想され、人生の終末期にある利用者や家族が安心して過ごしてもらうためには、介護職は終末期の状態や医療の関わりについて正しく理解することが重要となります。

一方、介護現場では、利用者やご家族との関係性に悩むことや、暴力やハラスメントへの対応に苦慮する場面も少なくありません。さらに、近年は高齢者虐待の通報件数も増加しており、介護従事者が日々のケアの中で虐待を防ぐ視点や知識を持つことが、これまで以上に求められています。

そこで、福岡県医師会では、介護従事者の皆様に看取りを含む終末期医療に関する基礎的な知識の習得や、医療との連携のポイント、高齢者虐待防止、ハラスメント対策など、日々の業務の中で実践的に活用できる具体的な対応方法を分かりやすくまとめた『高齢者施設介護職員のための実践ガイド～看取り・高齢者虐待防止・ハラスメント対応～』を作成しました。

本冊子が、日々のケアの中で「迷ったとき」「困ったとき」の手引きとして、また医療職との円滑な連携を図るための一助として、現場で働く皆様のお役に立てば幸いです。

令和8年3月

公益社団法人福岡県医師会
会長 蓮澤浩明

目次

第1章 看取り

不安解消!“看取り”はこわくない

8 ● 看取りとは

- 8 ● そもそも「看取り」ってどういうこと？
- 8 ● 「死」は特別なことではありません
- 9 ● 尊厳とは

10 ● 看取り期の介護

- 10 ● 看取り期の介護に大切なこと
- 11 ● 適切な時期に適切なケアを
- 12 ● 緩和ケアとターミナルケア
- 12 ● 体と心は変化する
- 13 ● QOLのために
- 13 ● 医療者との連携
- 14 ● 看取り前(危篤時)の徴候と症状の変化
- 14 ● 死の定義
- 16 ● 臨終(心肺停止)からお見送りまでの流れ

17 ● 看取り介護フローと必要な書類の例

18 ● 生前の意思をどうかなえるか

- 18 ● 事前の意思確認が重要
- 18 ● 看取り期の介護に欠かせない家族の存在
- 19 ● 日常生活から気づくこと
- 19 ● 身寄りのない方の看取り
- 20 ● 宗教や信仰への配慮

21 ● いろんな看取りの形

- 21 ● 病院での看取り
- 21 ● 高齢者施設での看取り
- 21 ● ホスピスでの看取り
- 21 ● 自宅での看取り

22 ● ご遺体の変化とエンゼルケア・エンバーミング

- 22 ● ご遺体への接し方
- 22 ● ご遺体の変化
- 22 ● エンゼルケアとは
- 23 ● エンバーミングという選択肢

24 ● ご遺族の気持ちによりそう

- 24 ● 危篤時・臨終時の家族のケア
- 25 ● 家族へのグリーフケア
- 26 ● 医療機関によるグリーフケア
- 26 ● 遺族から怒りをぶつけられた時

看取り期において医療者が何をしているか

28 ● 医療者の行動の意味を知ろう

- 28 ● 「治療」を優先しない医療ヘシフト

29 ● いろんな苦痛を緩和する方法

- 29 ● 身体的な痛みを緩和する
- 30 ● 栄養を補給する

31 ● 医療者が知りたいからだの変化

第2章 高齢者虐待防止

介護現場における高齢者虐待

34 ● 介護現場における高齢者虐待

- 34 ● 通報件数や虐待判断件数が増加

35 ● 虐待の種類と具体例

- 35 ● 身体的虐待
- 35 ● 放棄・放任(ネグレクト)
- 35 ● 心理的虐待
- 36 ● 性的虐待
- 36 ● 経済的虐待
- 36 ● 介護現場で起こる「3ロック」

身体拘束について

38 ● 身体拘束の適正化の推進

- 38 ● 尊厳を守るため、適正な判断を

39 ● やむを得ず身体拘束を行う場合

- 39 ● 満たすべき3つの要件
- 39 ● 切迫性の判断の確認ポイント
- 40 ● 非代替性の判断の確認ポイント
- 40 ● 一時性の判断の確認ポイント

41 ● 身体拘束に関する「記録」が義務

41 ● 身体拘束を行う際の手順

42 ● 拘束をしないための工夫

- 42 ● 「なぜその行動をするのか」を考える
- 43 ● 身体拘束をしない介護の糸口

言葉による虐待

44 ● どんな言葉が虐待になるのか

- 44 ● 言葉の暴力が心を壊す
- 44 ● 忙しい時こそ気をつけよう「スピーチロック」

45 ● 日頃から気をつけること

- 45 ● 利用者の疾患を把握しよう
- 45 ● 認知症ケアのスキルを高めよう
- 46 ● ふとした言葉で傷つくことも
- 46 ● 敬う気持ちを忘れない
- 46 ● 聞こえないから大丈夫？

ネグレクトも虐待

48 ● 介護・世話の放棄

- 48 ● 身体的ネグレクト
- 48 ● 心理的ネグレクト
- 48 ● 医療的ネグレクト

あなたの心が疲れた時

49 ● 自分の心と体のメンテナンスを

- 49 ● 疲労や睡眠不足が心に及ぼす影響

50 ● 虐待をしてしまったら

- 50 ● 1人で抱え込まない

介護拒否と利用者による暴力行為

51 ● 介護拒否をされたら

- 51 ● なぜ介護拒否が起きるのか
- 52 ● 介護拒否の対応方法

53 ● 利用者による暴力行為

- 53 ● 自分の身を守ることが最優先
- 53 ● 精神科医のサポート

高齢者虐待防止法

54 ● 虐待行為を発見したら

- 54 ● 職員の通報が義務

54 ● 刑罰の対象になることも

第3章 介護職員への暴力・ハラスメント対策

ガマンしない、見過ごさないために

- 58 ● 暴力・ハラスメントとは
 - 59 ● 精神的暴力・身体的暴力
 - 59 ● セクシュアルハラスメント
 - 60 ● 利用者の家族からの暴力・ハラスメント
- 61 ● ハラスメントとしての対応ではなく、ケアが必要な場合
 - 61 ● 病気が原因で起こる不適切行為

安心して働くために

- 62 ● ハラスメント対策のポイント
 - 62 ● 初期対応が大切
 - 63 ● 施設の場合
 - 63 ● 訪問系サービスの場合
 - 64 ● 暴力行為に至る前のサインを察知する
- 65 ● 利用者とのちょうどいい距離って？
 - 65 ● 介護のプロとしてよりそう
 - 65 ● 「親しみ」と「なれなれしさ」の境界線

被害にあった時は

- 67 ● 自分の身を守る
 - 67 ● 身体的暴力があった場合
 - 68 ● 精神的暴力・セクシュアルハラスメントがあった場合
- 69 ● 被害にあったら必ず伝えよう
 - 69 ● 「嫌だ」「不快だ」と感じた気持ちを無視しない
 - 70 ● 心のケアをしよう
 - 70 ● 自分の気持ちを吐き出す
 - 70 ● 身体に不調が出たら必ず専門家に相談を

ハラスメントを乗り越える 介護現場のチーム力！

- 71 ● チームとしてハラスメントにどう向き合うか
 - 73 ● 個々の施設・事業所だけで抱え込まない

福岡県の取り組み

- 74 ● 活用しよう！
『在宅の医療及び介護事業所のための暴力・ハラスメント対策マニュアル』
 - 74 ● 「暴力・ハラスメント対策の指針」にはどんなことを書いたらいい？
 - 75 ● 「研修」ってどうやったらいいの？
 - 75 ● 契約時に説明して渡す資料はどんなものにしたらいい？
 - 76 ● この暴力やハラスメント、法律ではどう扱われる？
 - 78 ● 暴力・ハラスメントが原因で契約解除をする時の「正当な理由」って？
 - 78 ● 暴力・ハラスメント発生時の対応をフローチャートでまとめたい
 - 78 ● 暴力・ハラスメント発生時の記録はどうしたらいい？
 - 79 ● 相談連絡先一覧

付録

- 80 ● 外国人介護職員との異文化コミュニケーション

- 86 ● 索引